

平成 28 年(2016 年) 3 月 3 日
山口県病虫害防除所

1 病虫害名 トマト葉かび病菌レース 2.9
Passalora fulva (Cooke) U. Braun & Crous

2 作物名 トマト

3 特殊報の内容 抵抗性品種を侵す病原菌レースの新発生

4 発生経過

(1) 発生時期 平成 27 年 7 月

(2) 発生地域 萩市

(3) 発生状況

平成 27 年 7 月、萩市の夏秋トマト施設において、抵抗性品種の「麗夏」に葉かび病の発生が確認された。国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構野菜茶業研究所にレース検定を依頼したところ、本県では未確認のレース 2.9 (抵抗性遺伝子 *Cf-2* 及び *Cf-9* を持つ品種を侵すことができる菌株) であることが判明した。

抵抗性遺伝子 *Cf-9* を持つ品種を侵すレースは、国内では平成 19 年に群馬県、千葉県及び福島県で発生が確認され、以降、各地で報告されている。

5 本病の特徴

(1) 本病は一般に下葉から発生し、葉の表面に不鮮明な淡黄色の小斑点を生じ、裏面は円形から不整形の灰褐色でビロード状のかびを密生する(写真 1, 2)。病勢が進むと上位葉にまん延し、葉が枯死する。

(2) 症状は、すすかび病と類似し(写真 4, 5)、両病害は混発することがあるが、肉眼での識別は困難である。光学顕微鏡により分生胞子の形態を確認することで判別できる(写真 3, 6)。

6 防除対策

(1) 葉かび病抵抗性品種を栽培しているほ場でも葉かび病が発生する恐れがあるため、今後の発病に注意する。

(2) 平成 27 年農作物病虫害・雑草防除指導基準に従って、葉かび病の防除を行う。すすかび病も同時に発生するほ場では、両病害は同時防除が期待できることから、すすかび病の防除に努める。

(3) 防除においては同一系統の薬剤を連用しないようにし、使用前にラベルを確認して散布する。

葉かび病の病徴等



写真1 葉かび病 葉表面の病徴

すすかび病の病徴等



写真4 すすかび病 葉表面の病徴



写真2 葉かび病 葉裏面の病徴



写真5 すすかび病 葉裏面の病徴



写真3 葉かび病菌の分生胞子



写真6 すすかび病菌の分生胞子